

履修コード/科目名称	062401 / 社会科教育法Ⅴ（公民）		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	金曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	橋爪 敏（ハシヅメ サトシ）		
副担当教員氏名(カナ)			
授業概要	<p>この授業は、高等学校公民科(現代社会、政治経済、倫理)教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。</p> <p>しかしながら、それは、直接的な教育方法といったノウハウだけを意味する物ではない。高等学校公民科は、かつては<社会科>として、戦後教育の中心を成す、民主主義社会の担い手を育成する、ひいては民主主義社会を構築するための教科という重大な使命を帯びたものであった。したがって、生徒にとっては、なにを学ぶのか、教師にとってはなにを教えるのかを常に意識する必要がある教科である。</p>		
到達目標(ねらい)	<p>授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能となる形式で行いたい。しかし半期科目であり、時間も限られている。受講学生数によっては、その方法を変えざるをえないが、原則として、公民科教育法に関する文献講読を主としたい。学生諸君に分担してその内容を報告してもらい、それをもとにして、公民科とは何か、如何にあるべきか、如何に教えるべきかを、ともに気づき、考えることの出来る授業としたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。</p>		
授業スケジュール	第 1 回	「社会科教育法Ⅴ(公民)」とはなにか。	
	第 2 回	課題レポートの決定、教科書の検討、参加学生の自己紹介。	
	第 3 回	社会科と民主主義－内容の報告と検討	
	第 4 回	社会科と国民国家－内容の報告と検討	
	第 5 回	社会科と市民社会－内容の報告と検討	
	第 6 回	社会科と社会科学－内容の報告と検討	
	第 7 回	社会科と子ども－内容の報告と検討	
	第 8 回	社会科教育とグローバル化－内容の報告と検討	
	第 9 回	社会認識と市民的資質－内容の報告と検討	
	第 10 回	社会科学科としての社会科－内容の報告と検討	
	第 11 回	社会研究科としての社会科－内容の報告と検討	
	第 12 回	社会問題科としての社会科－内容の報告と検討	
	第 13 回	シティズンシップ教育としての社会科カリキュラム－内容の報告と検討	
	第 14 回	社会科カリキュラム編成(1)地理歴史中心(知識)－内容の報告と検討	
	第 15 回	前回までの内容を総合的に検討して、後期の授業に続ける。	
準備学習	指定の教科書を事前に、よく読み内容を理解し、議論できるようにしておくこと。		
履修上の留意点等	教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。		
成績評価の方法		試験	
	70 %	レポート	
		小テスト	
	30 %	平常点	

	最終レポート並びに普段の報告、質問、授業への参加状況、出席状況などを総合して決定する。
教科書/テキスト	社会認識教育学会編『新社会科教育学ハンドブック』明治図書出版(株) ISBN978-4-18-011634-8
参考書 ▶ 図書館蔵書検索	森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書, 社会認識教育学会編『社会科教育のニューパースペクティブ』明治図書他、適宜必要に応じて指示する。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	社会科教育法は、いかに教えるかという技術の問題ではなく、なんのための知識が問われる社会科かをまず抑えることが重要だと考える。その点を、より一層ともに考えていく方向を目指したい。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	